



TITLE:

『京都大学高等教育研究』編集規定・投稿規定・表紙・目次・奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

『京都大学高等教育研究』編集規定・投稿規定・表紙・目次・奥付.
京都大学高等教育研究 2008, 14: 245-247

ISSUE DATE:

2008-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/70809>

RIGHT:

『京都大学高等教育研究』編集規定

（平成18年 5 月 1 日改正）

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育研究開発推進センターが発行する研究誌である。
 2. 本誌には、本センター関係教員の論考、共同研究の報告その他本センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する他、投稿論考を掲載する。ただし、投稿論考については、当分の間、次項に規定する編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものに限定する。
 3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
 4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
 5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規定及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
 6. 投稿された論考の掲載および論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
 7. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。ただし、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。
- （附則）本規定は、平成18年度発行の『京都大学高等教育研究』第12号から施行する。
-

『京都大学高等教育研究』投稿規定

（平成18年 5 月 1 日改正）

（全般）

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとし、かつ、当分の間、編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものとする。この責任の範囲については、投稿の前に、編集委員会に問い合わせること。
2. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告、招待論文、センター教員・共同研究論考に区分される。研究論文は、学問的な手続きに基づいておこなわれた、高等教育に関する独創的・新規な研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考である。研究ノートは、高等教育研究への有益な資料となる論考である。実践報告は、高等教育研究への示唆となる、高等教育に関する実践の報告である。招待論文は、編集委員会が寄稿を依頼した論考である。センター教員・共同研究論考は、センターの専任教員の論考もしくはセンターの共同研究に関わる論考である。
3. 論考は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考を投稿する場合、研究論文、研究ノート、実践報告のいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。
5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考は原則として日本語あるいは英語を用いて作成すること。
7. 原稿は原則として以下の作成要領により、ワープロソフトによって作成するものとする。ただし、センター教員・共同研究論考の分量については、この限りではない。

〈日本語の場合〉

- ・ A4版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
- ・ 40文字×25行の1,000字を1頁とし、20頁以内の分量とする（図表、註、参考文献を含む）。
- ・ 題名の後に題名の英訳及び英文200語程度の要約を付すこと。
- ・ キーワードを日本語・英語それぞれ5つ以内であげること。

〈英語の場合〉

- ・ A4版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
- ・ 300語程度を1頁とし、20頁以内の分量とする（図表、註、参考文献を含む）。
- ・ 200語程度の要約を付すこと。
- ・ キーワードを5つ以内であげること。
- ・ フォントは Times New Roman とし、サイズは12ポイントとする。

8. 原稿3部（うち2部はコピー可）を編集委員会に提出する。また、別紙として、氏名（ふりがな）、所属（職名その他を含む）、連絡先（郵便番号、住所、電話番号）、希望区分（研究論文、研究ノート、実践報告のいずれか）を記入した用紙を添付する。

（用語）

9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。ただし、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

（註・引用文献）

11. 註及び引用文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、註のあとにまとめてアルファベット順に記載する。論文の場合は、著者、発行年、文献題目（日本語文献の場合、「」内に記載）、雑誌名（日本語文献の場合、『』内に記載。外国語文献の場合は斜体字で記載）、巻号、頁の順に記載する。単行本については、1冊を引用対象とする場合、著者、発行年、書名（日本語文献の場合、『』内に記載。外国語文献の場合は斜体字で記載）、発行所、頁の順に記載し、一部分を引用する場合には、著者、発行年、引用部分の題目（日本語文献の場合、「」内に記載）、編者、書名（日本語文献の場合、『』内に記載。外国語文献の場合は斜体字で記載）、発行所、頁の順に記載する。なお、訳書の場合は、原語の著者名、原書発行年、原書名（斜体字）、原書発行所名を書き、その後に（ ）内に訳者名、訳書の発行年、訳書名（『』内に記載）、訳書の発行所名の順に記載する。（下例を参照のこと）

—例—

・ 論文

大山泰宏 2002 「大学教育評価の課題と展望」『京都大学高等教育研究』7号、37-56頁。

Hermans, H. J. 1970 A questionnaire measure of achievement motivation. *Journal of Applied Psychology*, 54, 353-373.

・ 単行本

讃岐幸治・田中毎実（共編）1995 『ライフサイクルと共育』青葉図書。

McLuhan, M. & Fiore, Q. 1967 *The medium is the message*. Jerome Agel.

溝上慎一 2002 「学生の理解の枠組みをふまえた授業展開」京都大学高等教育教授 システム開発センター（編）『大学授業研究の構想—過去から未来へ—』東信堂、57-86頁。

Hermans, H. J. M. 1995 From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy*. American Psychological Association. 247-272.

McLuhan, M. & Fiore, Q. 1967 *The medium is the message*. Jerome Agel. （南博訳 1995 『メディアはマッサージである』河出書房新社。）

12. 引用文献と註を区別し、註は本文中の該当個所に、上付き文字で（1）、（2）…と指示し、論考末尾にまとめて記載する。

13. 引用文献は、本文中では、著者名（出版年）、あるいは（著者名、出版年）として表示する。同一著者の同一年の文献については、a、b、c、…をつける。

例 ・田中（1995a）が強調するように、…という調査結果も提示されている（田中、1996）。

（その他）

14. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし掲載誌2部と抜き刷り30部を贈呈する。なお、抜き刷りについては、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。
15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。

原稿締切日 8月31日

16. 掲載された論考の著作権は京都大学高等教育研究開発推進センターに属する。
17. 本規定の改正は編集委員会が行う。

（附則）本規定は、平成18年度発行の『京都大学高等教育研究』第12号から施行する。

京 都 大 学
高 等 教 育 研 究
第 14 号

京都大学高等教育研究開発推進センター

2008

目 次

第一部 論 考

研究論文

“Understanding Students’ Perceptions of Difficulty with Academic Writing for Teacher Development:
A Case Study of the University of Tokyo Writing Program”

Nancy Shzh-chen Lee: College of Arts and Sciences, the University of Tokyo

Akira Tajino: Center for the Promotion of Excellence in Higher Education, Kyoto University

..... 1

「小規模私立大学でのグループ学習による情報教育の実践」

寺 川 佳代子 常磐会学園大学／京都大学大学院情報学研究科

喜 多 一 京都大学大学院情報学研究科／京都大学学術情報メディアセンター

..... 13

「アメリカの若手教育者・研究者養成制度に関する研究—日米比較の視点から—」

吉 良 直 日本教育大学院大学学校教育研究科

北 野 秋 男 日本大学文理学部..... 25

実践報告

「構成的グループ・エンカウンターを取り入れた参加型授業に対する学生の意識と評価」

曾 山 和 彦 名城大学教職センター..... 37

「キャリア教育における教育効果の検討—キャリアに対する態度と自己の変化に注目して—」

中 間 玲 子 福島大学人間発達文化学類..... 45

「大学生によるカリキュラムデザイン—教養教育科目の選択と有機的関連づけの支援—」

杉 原 真 晃 山形大学高等教育研究企画センター..... 59

「徳島大学における FD 実施組織としての役割と機能—大学開放実践センター FD 活動の事例分析より—」

香 川 順 子 徳島大学大学開放実践センター

川 野 卓 二 徳島大学大学開放実践センター

宮 田 政 徳 徳島大学大学開放実践センター

神 藤 貴 昭 立命館大学経済学部

曾 田 紘 二 徳島大学大学開放実践センター

奈 良 理 恵 徳島大学大学開放実践センター..... 71

高等教育の動向

「医療系教育における FD の展開—医師臨床研修必修化と FD—」

| | | |
|-------|---------------------|----|
| 平 出 敦 | 京都大学医学研究科医学教育推進センター | |
| 森 本 剛 | 京都大学医学研究科医学教育推進センター | 83 |

大学教育研究レビュー

「大学教育研究フォーラムにおける FD 研究報告の動向—FD 義務化前の 6 年間の報告を中心として—」

| | | |
|-------|--------------|----|
| 井 下 理 | 慶應義塾大学総合政策学部 | 87 |
|-------|--------------|----|

資料

「朝永正三先生と佐瀬武雄さんの卒業證書」

| | | |
|---------|--------------|-----|
| 牧 野 俊 郎 | 京都大学大学院工学研究科 | 105 |
|---------|--------------|-----|

センター教員・共同研究者論考

「英語学術論文執筆のための教材開発に向けて—論文コーパスの構築と応用—」

| | | |
|---------|----------------------|-----|
| 田地野 彰 | 京都大学高等教育研究開発推進センター | |
| 寺 内 一 | 高千穂大学商学部 | |
| 金 丸 敏 幸 | 京都大学大学院人間・環境学研究科 | |
| マスワナ紗矢子 | 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程 | |
| 山 田 浩 | 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程 | 111 |

「京都大学における「英語」—全学共通科目としての内実—」

| | | |
|---------|--------------------|-----|
| 桂 山 康 司 | 京都大学高等教育研究開発推進センター | 123 |
|---------|--------------------|-----|

「ローティの大学教育論についての考察—偉大なる文芸作品を読むことの意味—」

| | | |
|---------|--------------------|-----|
| 中 村 夕 衣 | 京都大学高等教育研究開発推進センター | 133 |
|---------|--------------------|-----|

「大学生の精神的不適応に対する予防的アプローチ—授業の場を活用した抑うつ的一次予防プログラムの改訂と効果の検討—」

| | | |
|---------|--------------------|-----|
| 及 川 恵 | 京都大学高等教育研究開発推進センター | |
| 坂 本 真 士 | 日本大学文理学部 | 145 |

第二部 記 録

「第14回大学教育研究フォーラム 基調報告／シンポジウム」

相互研修型 FD の組織化をめぐる

開会の挨拶 尾 池 和 夫 京都大学総長…………… 157

基調報告 「相互研修型 FD の組織化」の可能性—本取組の総括—（特色 GP 成果報告）

田 中 毎 実 京都大学高等教育研究開発推進センター長…………… 160

シンポジウム「相互研修型 FD の組織化をめぐる」（特色 GP 評価シンポジウム）

司 会 大 塚 雄 作 京都大学高等教育研究開発センター教授

松 下 佳 代 京都大学高等教育研究開発センター教授…………… 180

評価コメント1 天 野 郁 夫 東京大学名誉教授…………… 181

評価コメント2 関 内 隆 東北大学高等教育開発推進センター高等教育開発部長・教授…………… 185

評価コメント3 山 内 正 平 千葉大学普遍教育センター教授…………… 192

評価コメント4 絹 川 正 吉 国際基督教大学元学長・名誉教授…………… 197

全体討論…………… 208

（所属等はフォーラム開催時）

日誌・業績

高等教育研究開発推進センター日誌（2007年4月～2008年3月）…………… 219

高等教育研究開発推進センター組織（2007年4月～2008年3月）…………… 225

高等教育研究開発推進センター教員業績（2007年4月～2008年3月）…………… 227

『京都大学高等教育研究』規定

『京都大学高等教育研究』編集規定…………… 245

『京都大学高等教育研究』投稿規定…………… 245

『京都大学高等教育研究』第14号 編集委員会

◎松 下 佳 代 吉 田 純 日 置 尋 久
酒 井 博 之 ○及 川 恵
(◎印：編集委員長 ○印：編集幹事)

平成20年11月30日 印刷

非売品

平成20年12月 1 日 発行

発 行 京都大学高等教育研究開発推進センター
 京都市左京区吉田二本松町（〒606－8501）
 TEL 075－753－3087
 FAX 075－753－3045

印 刷 中西印刷株式会社
 京都市上京区下立売通小川東入ル
 TEL 075－441－3155

Kyoto University Researches in Higher Education

vol. 14

CONTENTS

I Articles

Papers

- Understanding Students' Perceptions of Difficulty with Academic Writing for Teacher Development:
A Case Study of the University of Tokyo Writing Program Nancy Shzh-chen LEE
Akira TAJINO
- The Practice of Teaching Computer Literacy using Group Learning in Two Small Private Universities
..... Kayoko TERAOKAWA
Hajime KITA
- Training Programs for Junior Educators and Researchers in U.S. Universities: Comparative Perspectives
between the U.S. and Japan Naoshi KIRA
Akio KITANO

Reports

- Student Awareness and Evaluation of Lectures at University that have Adopted Structured Group Encounter
..... Kazuhiko SOYAMA
- A Study of Educational Effects of Career Education: Investigations of Learning Evaluation and Self-changes
..... Reiko NAKAMA
- Curriculum Design by Students: For Supporting Students to Select General Education Courses and to Relate
Them with Each Other Masaaki SUGIHARA
- Roles and Functions of the Center for University Extension at the University of Tokushima as a Center
for Faculty Development Junko KAGAWA
Takuji KAWANO
Masanori MIYATA
Takaaki SHINTO
Koji SODA
Rie NARA

Trends of Higher Education (Invited Papers)

- Evolution of Faculty Development (FD) in Clinical Education: Reforms for Compulsory Postgraduate Clinical
Training and FD Atsushi HIRAIDE
Takeshi MORIMOTO

Research Review on Higher Education

- Trends of Research Reports Presented at the Annual Kyoto Conference on Educational Reforms in Higher
Education in Japan, 2002–2007—Focusing on Papers Related to Instructional and Faculty Development—
..... Osamu INOSHITA

Short Report

- The Diplomas of Professor Shozo Tomonaga and BE Takeo Sase Toshiro MAKINO

Articles of Center Staff and Research Fellows

- Toward the Development of English Academic Writing Materials: The Creation and Application of a Research
Paper-based Corpus in Six Academic Disciplines Akira TAJINO
Hajime TERAUCHI
Toshiyuki KANAMARU
Sayako MASWANA
Hiroshi YAMADA
- The Idea and Scheme of 'English' at Kyoto University: EGAP and its Desiderata Kohji KATSURAYAMA
- Richard Rorty's View of University Education: On the Meaning of Reading Great Works of Literature
..... Yui NAKAMURA
- Preventing Mental Health among Undergraduates: The Effects of using a Revised Primary Prevention
Program for Depression in University Classes Megumi OIKAWA
Shinji SAKAMOTO

II Documents

- 14th Kyoto University Conference on Higher Education:
Organizing Mutual Faculty Development
- Opening Remarks Kazuo OIKE
- Keynote Presentation Tsunemi TANAKA
- Symposium
- Chairperson Yusaku OTSUKA
Kayo MATSUSHITA
- Response1 Ikuo AMANO
- Response2 Takashi SEKIUCHI
- Response3 Shohei YAMAUCHI
- Response4 Shokichi KINUGAWA
- Discussion

CENTER FOR THE PROMOTION OF EXCELLENCE IN HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2008